横浜国立大学留学生による自国の文化紹介

第3弾! フランス共和国 リヨン市の紹介!

◆自己紹介



フランスのリョンから来ました横浜国立大学教育学部のアントワー ヌ・ジョバールと申します。

世界的にもワインで有名なフランス東部のブルゴーニュ地域の町で幼少期を過ごし、今はリヨンの大学で日本語や日本文化について勉強しています。昨年10月、留学生として横浜に来ました。1年という短い留学期間ですが、ここ保土ケ谷区で、日本の歴史、地理、文学、文化史などを学んでいます。

アントワーヌさん

◆フランス共和国の紹介

フランス本土は西ヨーロッパに位置し、地中海に面した南部にイタリア、スペイン、モナコ、東部にスイス、ドイツ、北部はベルギー、ルクセンブルグと7つの国に面しています。本土の大きさは日本の約1.5倍、人口は約6200万人です。首都パリをはじめ、南部のコートダジュールやプロバンス地域、北西部のモンサンミッシェルで有名なノルマンディー地域、美しい村が点在する東部のアルザス地域など、地方によって見せる顔が様々で、毎年、世界中から多くの観光客が訪れる観光大国です。フランス政府観光委員会の調査によると、2018年にフランスを訪れた観光客は約8900万人だったそうです。



フランス南部 エズ村



フランス東部 ストラスブール







北西部 ノルマンディー地域の モンサンミッシェル

リヨン市の紹介

私の出身地リヨン市はフランス本土の南東部に位置する都市です。国内で3番目に人口が 多く、約51万人が生活しています。(パリ220万人、マルセイユ86万人に次ぐ。)

首都パリからは TGV という高速鉄道 (新幹線のようなもの) に乗って約2時間でアクセスできます。市内の公共交通機関はバス、地下鉄の他、トラム (路面電車) があり、市民の足として利用されています。

まず、リヨンを語る上で忘れてはならないのが、リヨンが「映画の街」であることです。 リヨン出身のリュミエール兄弟が、(エジソンが発明した)キネトスコープを改良し、スク リーンに投影することによって、一度に多くの人々が鑑賞できるシネマトグラフ・リュミエ ールを開発し、現代映画の発展に寄与しました。その後、市内に映画発展のための研究所も 設立されています。



ソーヌ川、ローヌ川に囲まれたリヨンの街 写真提供:cTristan Deschamps

また、リヨンは世界屈指の「美食の街」としても有名です。フランス料理と聞くと、「高い!」というイメージがあるかと思いますが、リヨンはこの地域オリジナルの伝統料理を提供する「ブション」という大衆食堂が街中にあり、伝統を大切にした昔ながらの味を安価な価格で市民や観光客に提供し続けています。後ほど、私がおすすめする「旧市街地」には、このブションが細い路地にひしめき合って、料理人が腕を競っています。



カワカマス(魚)をすり身にしてオーブンで焼いた グラタン 「クネル」



豚肉のドライソーセージ「ソシソン」

リヨンのおすすめ

私がリヨンで最もおすすめしたいのが、「旧市街地」です。中世の街並みが残るこの地区は、1992 年にユネスコの世界遺産に登録されました。石畳の細い道、地中海沿いの街並みでよく目にするたくさんのバルコニー付きの建物が続きます。旧市街地の丘の上にはサンジャン大聖堂があり、市内全体を見守っているかのように佇み、リヨンのランドマークとなっています。リヨンはかつて絹織物の街として栄えましたが、当時、絹織物工たちの作り上げた絹織物が雨などに濡れないように運ぶために、「トラブール」と呼ばれる建物の中を通る回廊が造られ、これらが今も当時のまま残されています。



リヨン旧市街地

リヨンの伝統行事 光の祭典

毎年 12 月初旬ごろからクリスマス前まで街中で光の祭典を開催しています。このイベントは約 30 年にも渡り、続いています。街のあらゆる通りや建物、広場等が色とりどりの光でライトアップされ、大聖堂の壁にプロジェクションマッピングを投影したりと、まるで街全体が展示会場です。2019 年には、この祭典期間だけで約 180 万人の観光客が来場しました。





ベルクール広場

ジャコバン広場

◆横浜市とリヨン

絹織物産業が盛んであったリヨンですが、19 世紀にヨーロッパ全体を襲ったカイコの病気がきっかけで、一時的に絹の入手が困難になり、産業に大きな打撃を受けていました。その危機を救ったのが、横浜港から輸出された日本の生糸でした。絹がとりもつ縁によって両市は友好関係を築いていき、1959 年にリヨン市と横浜市は姉妹都市となりました。昨年は姉妹都市提携 60 周年を記念してリヨン市と横浜市で様々なイベントが実施されました。



写真提供:Soierie Saint-Georges

◆保土ケ谷区についての感想

区内の学生寮に住んでいますが、保土ケ谷区はとても静かで暮らしやすい街だと感じています。また、徒歩圏内にスーパーマーケットや生活用品を購入できるお店がいくつもあって便利です。他の留学生もよく言っていますが、バスの路線、運行本数もたくさんあって、横浜駅などに出る際には本当に便利です。また区内に、多国籍料理のレストランがたくさんあるのも魅力です。大学の近くにあるインド料理屋さんに毎週決まった曜日に友人と一緒に行くことが私の楽しみです!

昨年、ほどがや国際交流ラウンジが主催する「ほどがや国際フェスタ」に区役所と一緒に 出展し、「リヨンの街紹介」をさせていただきました。多くの方に来場いただき、区民の皆 さんがリヨンに関心を持っていただけて、本当に嬉しかったです。これも、長い間、二つの 都市が友好を深めてきた絆なのだなと改めて実感しました。この日、区内にお住いのフラン ス出身の方にも巡り会えました。外国人住民の方に新しい土地での生活に早く慣れ親しめ るようサポートをするお仕事をしていると聞き、私も良い刺激を受けました。

間もなく1年間の留学期間を終え、フランスに帰国します。保土ケ谷区での経験を生かしてこれからも日本とフランスが友好的に繋がり合える関係に寄与したいと思っています。



ソーヌ川、ローヌ川に囲まれたリヨンの街 写真提供: cTristan Deschamps

こちらの記事は、留学生がフランス語で記載した原稿を区で翻訳し、編集しています。